



世界革命

世界社会主義合衆国樹立をめざし 万国の労働者団結せよ！ 全世界に新しい共産党を組織せよ！

日本革命的共産主義者同盟 7 (第四インターナショナル日本支部)

1971年9月21日(火) 第248号(毎月1・11・21日発行)(昭和46年6月24日第3種郵便物認可) 発行 新時代社 東京都港区芝5-13-17 (第四インターナショナル日本支部)

Digitized by srujanika@gmail.com

要塞死守戦貫徹、機動隊を殲滅す
佐藤自民党政打倒
工事中止の追撃戦へ

公団、大木よなさん宅へ抜打執行
“一粒の米まで元通りに返せ！”

まき地力も共産黨のうらへんに、
主張する政策の目録」であった。
その中で、その姿の中第三に
記載されたのが建設五年計画は、
建設の核心問題のあるの
つづく反対の大問題の不出
だ。

・新幹線の運営実績と大間違が、
　向うの運営をも勝手に評議する
　ふたての現象。
　その結果、
　土日の混雑局
　これが運営が苦命の原因

六二、居
三塹環焉弗吉。わが赤ヘル二五。すべく法華した男学の體に固く、機運は大に高まつた。この事は、元々の機運は、二十六の機運であつて、反対側の機運では、作業者等の機運であつたからである。

10.4三里塚鬪爭勝利大報告集会

とき 10月4日午後5時30分 主催 國際主義労働者委員会

ところ 千駄ヶ谷区民会館

学生インター 国際主義高校戦線

本号の内容

六面 排外主義三派の隊
の敵対を粉碎し、兵士
に實業を伝えよ
七面 ドルの急落一E.
八面 非合法競争の言面
たボリビア労働者の闘

非合法闘争の局面に突入

ボリビア労働者
半敗北す

ボルシアの四日市データは、中米においてより、「ベル等の「中革命的状態」に対する反對、即ち「暴力的懲罰」の懲罰主義を發したのである。その意味において、ボリビアにおいても、軍事政権が「暴力的懲罰」を施さなかったのである。蓋し、軍事政権の社會主義的として軍事政権が「暴力的懲罰」を施さないでよい。それが第四回データー、ヨルバルは現状において、レーベ、ボリビア（アリンド）（ヨリシ）等の人民民主政權の「本質的性質」とその要領によつて、即ち極めて「革命的性質」の創造のために歸すであつた。しかし、その力の弱さに於ける事、第四回データーが十分効用的で機能しないなどと若草臣に説く、かつ、今後も「政治改良」による社会主義的動向への懸念の如く、非正當性から困難な状況下で開いた病院の如くの問題が生ずる事である。しかるに、そのはボリビア、データーの教訓間の連絡を取定したが、そこから今後の展開を予想する。

史上最大の大会開く SWP

た。一五七一年五月三十日、一五七一年六月三日、一五七一年六月四日、一五七一年六月五日、一五七一年六月六日、一五七一年六月七日、一五七一年六月八日、一五七一年六月九日、一五七一年六月十日、一五七一年六月十一日、一五七一年六月十二日、一五七一年六月十三日、一五七一年六月十四日、一五七一年六月十五日、一五七一年六月十六日、一五七一年六月十七日、一五七一年六月十八日、一五七一年六月十九日、一五七一年六月二十日、一五七一年六月二十一日、一五七一年六月二十二日、一五七一年六月二十三日、一五七一年六月二十四日、一五七一年六月二十五日、一五七一年六月二十六日、一五七一年六月二十七日、一五七一年六月二十八日、一五七一年六月二十九日、一五七一年六月三十日、一五七一年六月三十一日、一五七一年七月一日、一五七一年七月二日、一五七一年七月三日、一五七一年七月四日、一五七一年七月五日、一五七一年七月六日、一五七一年七月七日、一五七一年七月八日、一五七一年七月九日、一五七一年七月十日、一五七一年七月十一日、一五七一年七月十二日、一五七一年七月十三日、一五七一年七月十四日、一五七一年七月十五日、一五七一年七月十六日、一五七一年七月十七日、一五七一年七月十八日、一五七一年七月十九日、一五七一年七月二十日、一五七一年七月二十一日、一五七一年七月二十二日、一五七一年七月二十三日、一五七一年七月二四日、一五七一年七月二五日、一五七一年七月二六日、一五七一年七月二七日、一五七一年七月二八日、一五七一年七月二九日、一五七一年七月三十日、一五七一年七月三十一日、一五七一年七月三十二日、一五七一年七月三十三日、一五七一年七月三十四日、一五七一年七月三十五日、一五七一年七月三十六日、一五七一年七月三十七日、一五七一年七月三十八日、一五七一年七月三十九日、一五七一年七月四十日、一五七一年七月四十一日、一五七一年七月四十二日、一五七一年七月四十三日、一五七一年七月四十四日、一五七一年七月四十五日、一五七一年七月四十六日、一五七一年七月四十七日、一五七一年七月四十八日、一五七一年七月四十九日、一五七一年七月五十日、一五七一年七月五十一日、一五七一年七月五十二日、一五七一年七月五十三日、一五七一年七月五十四日、一五七一年七月五十五日、一五七一年七月五十六日、一五七一年七月五十七日、一五七一年七月五十八日、一五七一年七月五十九日、一五七一年七月六十日、一五七一年七月六十一日、一五七一年七月六十二日、一五七一年七月六十三日、一五七一年七月六四日、一五七一年七月六五日、一五七一年七月六六日、一五七一年七月六七日、一五七一年七月六八日、一五七一年七月六九日、一五七一年七月七十日、一五七一年七月七十一日、一五七一年七月七十二日、一五七一年七月七三日、一五七一年七月七四日、一五七一年七月七五日、一五七一年七月七六日、一五七一年七月七七日、一五七一年七月七八日、一五七一年七月七九日、一五七一年七月八十日、一五七一年七月八一

「戦闘」を解説する。この用語は、古くは「戦闘」としての意味で、主に「敵対する勢力との戦い」や「敵対する組織との戦い」などを意味する。しかし、現代では「競争」や「競争」、「競争」などと並んで、「競争」や「競争」、「競争」などの意味で使われる。「競争」は、主に「競争」や「競争」、「競争」などの意味で使われる。「競争」は、主に「競争」や「競争」、「競争」などの意味で使われる。

先駆的知識の将来に於ける影響は、現地の言語化によつて生ぜるが、必ずしもそれは、言語化の發達、即ち能動的創造性によつて、それらの新しく開拓形態を生むる所である。したがつて、マルクス主義の獨創性は、必ずしも能動的創造性に導かれる形態である。これが、その本質的特徴である。

つけた
ラ・バスの労働者・学生戦士

世界車論
発行所 東北支社(永継社)
新時代社 仙台市・番町1丁目12の4
編集・発行人 山口 明 エフ・ア・インセント内
電話 (0222) 23-5359
沖縄県本部(経済研究会)
那覇市那覇東商店街局古着館2050
本社 東京都港区芝5-13-17
電話 (03) 451-2818
振替口座 東京 57442
西安支社(コミュニケーション社)
大阪市北区方歳町1番地北一
ビル内 電話 (06) 311-0107
東北支社(永継社)
仙台市・番町1丁目12の4
エフ・ア・インセント内
電話 (0222) 23-5359
沖縄県本部(経済研究会)
那覇市那覇東商店街局古着館2050
8頁 50円
〈郵便料(郵便の場合は)〉
1部 半年1000円・年2000円
2部 ￥2000円・4000円
3部以上は、送料と社員負担
〈定期1部半年1300円〉

「國際革命 通信」

購読受付中 國際革命通信社

線にかけつけた
ラ・バスの労働者・学生戦士

購読支付中
國際革命通信社
東京都千代田区猿楽町2-7-9
TEL 291-9277
毎月10・25日発行
年間10,000円
契約料 半年 5,000円

インター・ナル・レポート

キリスト堂

イナシヨナル・レポート
のトロツ
学校成功
準を引下げる……”と述べざる
「賃貸金がインフレの原因である
という立派な主張は読んで
戦争とそれがインフレの主要な原因